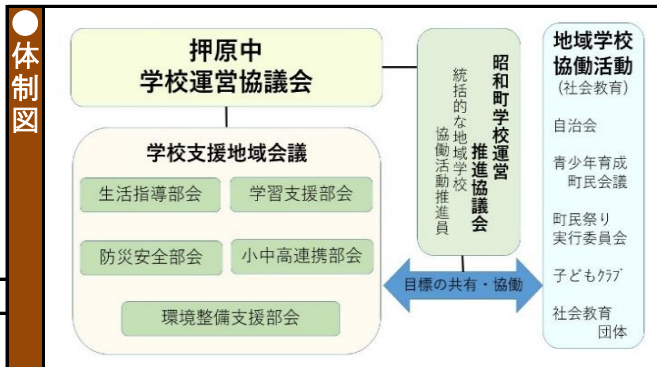


こんな活動です

# 地区別協働防災訓練 ～生徒たちが学校から出て、地域で活躍する～

山梨県昭和町		●活動名 押原中学校学校運営協議会			●関係する学校名 昭和町立押原中学校		
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	530 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 15人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 210人	企業・NPO等との連携	無	
参考URL	<a href="http://www.oshi-ihs.showacho.ed.jp">http://www.oshi-ihs.showacho.ed.jp</a>						
●連絡先	昭和町立押原中学校			☎ 055-275-2040			



●活動の概要・経緯

H27年コミュニティ・スクール指定を契機として、以前より行っていた学校支援や地域との交流活動を押原中学校運営協議会に設けた学校支援地域会議にコーディネート機能を持たせ、学校と地域・関係団体をつないで活動を進めてきた。その成果として、保護者や地域にコミュニティ・スクールとしての活動が周知され、地域住民の協力を更に得る中で、多くの取組が行われている。現在は、積み重ねてきた成果を元に「目標やビジョンを共有した地域とともにある学校」に向け協働活動を進めている。また、H29年度より教育委員会学校教育課にコミュニティ・スクール・ディレクターが配置され、協働活動のコーディネート機能が更に充実してきた。

地域の有価物回収、地域の子どもクラブ(児童・園児対象)の活動支援、町民祭りへの自主企画参加等、様々な協働活動を行っている。中でも、地区別協働防災訓練は、地域と学校が協働しその成果を両者が共有する活動となっている。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①地区別協働防災訓練：地域の防災や環境の知識や技能、関心を育成し地域の一員としての意識を高める活動。学校支援地域会議防災安全部会を母体として、各地区の防災訓練に参加。
  - ②他校種交流：地域子どもクラブの球技大会(野球部・バレー部)、町内小学校への陸上指導(陸上部)を行い、児童との交流や生徒のキャリア意識の育成。町内在住の高等学校生徒と協働し、町民祭りへの参加。自治会組織、小学校、町青少年育成カウンセラーが関わり活動している。
  - ③学校環境整備：歴代PTA役員会である「さくら会」を母体に、生徒とともに協働し、学校の環境整備を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

押原中学校は、町内にある唯一の中学校であり、住民の多くが卒業生である。地域の学校への関心や支援意識は高く、以前より教育活動への参画は多方面に渡って行われてきた。また、教育委員会にも青少年育成カウンセラーが配置され、地域と学校を結ぶ役割を担ってきた。H29より、CSD(コミュニティ・スクール・ディレクター)を配置することにより、コーディネート機能は更に高まっている。CSDのコーディネート機能を強化することにより、自治会組織やボランティア団体、他校種学校等との連携が広がり、協働活動や学校支援のパートナーが増加した。また、CSDにより「昭和町コミュニティ・スクール地域人材活用リスト(ボランティア団体・個人)」が作成され、連携の幅も大きく広がった。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

これまで積み重ねられてきた、様々な活動を「互いに目標を共有し、地域と一体となって生徒を育む、地域とともに歩む学校」という視点で整理したことにより、効率的に協働活動が行うことができている。

地区別協働防災訓練を地域学校協働活動の中心的な活動ととらえ、活動開始時より改善を重ねてきた。連携のパートナーとなる自治会組織も回を追うごとに、地域の人材育成や地域づくり等の意識が高まり、地区ごとの訓練内容にも深まりがみられるようになった。

CSDや青少年育成カウンセラーのコーディネート活動が増し、学校の負担軽減につながっている。

## ●その他

地域と協働する体制を拓ける機会として、保護者や地域住民の協力を得て、有価物回収に取り組んでいる。地域在住の芸術家や写真家と連携しスクールギャラリーを開催している。スクールギャラリーには多くの住民の参観がみられる。



地区別協働防災訓練の指導により実施



地区別協働防災訓練の救済訓練